

もしも宇宙飛行士にならたら

高橋 奏舟

ぼくが宇宙飛行士になったら、火星をグルグル回った宇宙ステーションの中にいると思う。地球から直接火星に行くよりも、食料の補給もでき、安心して火星に行くことができたらいい。もう一つ、火星の様子を観察し、ちょうど良いときに宇宙ステーションに帰ることもできる。ぼくは、宇宙ステーションの中で火星探査車を動かしたり、火星に着陸したりして、生命のこんせきを探すとや火星に人類が住むためのコロニーを作っているだろう。火星に着陸したら、したいことがある。それは、二つわけてしまつた火星探査車を見つけて直してあげることだ。直してあつた探査車と火星をいっしょに探査したい。火星探査車と探査すれば、楽しくこうりつよく探査することができる。お弁当を持っていて、火星でご飯を食べるの一番大変なのがコロニーを作

るまでだ。何人もの人がとまればよい。材料をなコロニーを作らなければならぬ。材料を持つて来たのは簡単だ。火星は重力が地球の0.38倍を小さい。だから荷持が軽くなる。でも紐をたるときは、ネジが転けて持てない感じがせず、手をトンカチで打ててしまつたこともあつた。

夜ご飯は、みんなが集まるといふの時間。みんなが探査した結果を話し合つてみる。バドで遊ぶのは一苦勞でバドもぼくが一番おそくなる。こうして宇宙で一日が終つた。いろいろいよ帰生だ。何人かは宇宙ステーションに残る。ぼくたちは宇宙船に乗り火星をはなれ地球に向う。宇宙船の中は、バドやアタリしてすごく楽しい。大気けんた入るのに、ハテランは、すずしい顔をしていた。大気けんは入つたときは、青い海をみつけた。そして、バシヤ。という音とともに着水し地球に帰る。ぼくが宇宙飛行士になつたら、さうなことに楽しくたのむ旅をしていこう。